

FULL HEIGHT DOOR®

STEALTH MODE ステルス枠

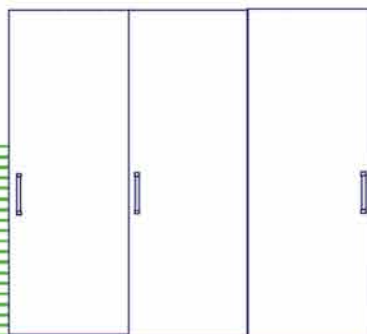
フルハイトドア®

施工手順書

3枚引違い戸【上吊 + 床付非連動タイプ】

3枚引違い戸

上吊 + 床付非連動タイプ



施工を担当される方へ

安全のために必ずお守りください



注意

● 施工前にこの手順書をよく読み、正しく施工してください

- 枠・下地枠の取付は、水平・垂直・ねじれがないかを必ずご確認し、確実な固定を行ってください。
- 本製品の組み立てで付属ビスがある場合には、必ずそのビスを使用してください。
付属ビス以外で取り付けた場合、部材の脱落や枠のゆるみ等が発生する恐れがあります。



● ケガや事故防止のため、以下の事項を必ずお守りください

- 風の強い場所では開き戸が強く閉まるなどして手をはさむ恐れがありますので
扉を開け放しにしないようご注意ください。
- 運搬作業時は滑り止めの手袋を着用し、扉建て付け時には十分気をつけて行ってください。



● 施工前及び施工時の確認

- 本製品は屋内用ですので、屋外や水がかりする箇所には使用しないでください。
- 本製品は内装扉を用途とする商品です。他の用途として使用したり、本手順書と異なった施工をした場合の保障は当社では責任を負いかねます。
- 高温・高湿の環境条件では使用できません。
- 施工前に部材の数量・キズの有無をご確認ください。
施工後のキズについては当社では責任を負いかねます。
- 部材を保管する場合は湿気・直射日光を避け、十分な養生をしてください。
- 開口部または枠の寸法を測り、躯体または枠が正確に施工されているか、
ご用意の扉サイズが適切かどうかご確認願います。
- 施工時に電動ドライバーを使用する場合は、カラモミを防ぐため最後の締め付けは
必ず手締めにて行ってください。
- 扉の調整の際には、電動ドライバーは絶対に使用しないでください。
ビス類が破損し、調整できなくなることがあります。
- 扉や枠の表面に、長時間テープを貼らないでください。汚れ・破損・色ムラの原因になります。
また、突き板塗装ドアの場合、塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。

● 施工後の処理

- お施主様への引渡し前に、工事管理者が必ず点検を行い、不具合箇所を補修してください。
- 施工後はキズが付かないように養生してください。
このとき、表面にテープを直接貼らないでください。
また、突き板塗装ドアの塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。
- 清掃の際は水を固く搾った布で汚れを落とした後、柔らかい布で乾拭きしてください。
また、汚れが落ちにくい場合は、薄めた中性洗剤で汚れを落とした後、
洗剤が残らないようによく拭き取ってください。
- 内装工事が終了するまでの間は、扉をはずして保管されることをお勧めします。

☐ 3枚引違い戸(上吊+床付レール・非連動タイプ)

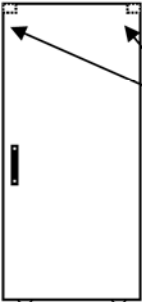
forステルス枠

施工手順書2013/6作成

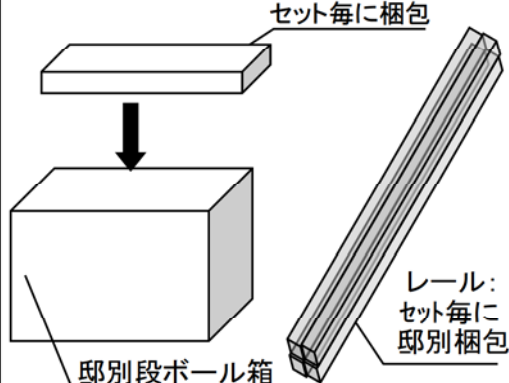
改訂2021/1

■ 製品及び同梱内容の確認

- 製品を開梱して、同梱品に間違いがないか確認をお願いします。

建具			同梱品				
部材	数量	備考					
引き戸	3枚	引手取付済み(スリット手掛けタイプはなし)					
		ケーシング取付済み 戸車取付済み					
 ケーシング (旧名称: 固定カップ)							

下地枠			施工手順書			
部材	数量	備考	同梱品			
縦枠下地	2本					
上枠下地	1本(2本)	W24サイズは2本に分割されています				
開口定規	1本(2本)	下地枠内寸法用 (W24サイズは2本に分割されています)				
				(注) 3枚引き違い戸・非連動タイプの上ローラーには、跳ね上がり防止ナットが付いておりません。跳ね上がり防止ナット付きを使用した場合、上部ストッパー干渉する恐れがあります。		
※下地枠外寸法開口定規は同梱されておりません。 ※上枠下地及び開口定規は2421mm以上の場合2分割されています。						
			品	(注) エンドプレートは2サイズありますのでご注意ください。 ポケット戸用(A=25mm)と、片引き戸用を含むその他の引き戸用(A=23mm)です。 取付ける際は引き戸の種類とエンドプレートのサイズをご確認ください。		

下地金物箱			上レール	床付レール(面付)	床付レール(埋込V)	上ローラー
部材	数量	備考				(注) 非連動専用 
金物箱	1式		3本(付属ビス含む)	3本(付属ビス含む)	3本	6ヶ
レール	1式		レールエンドプレート	化粧力バー	上部ストッパー	
 セット毎に梱包 レール: セット毎に 邸別梱包			(注)  6ヶ(ビス6本付)	 6ヶ	 6ヶ	
			調整ビス			
			 1セット			
				H24 28本 H27 28本		

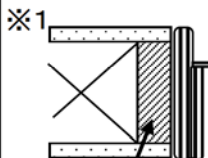
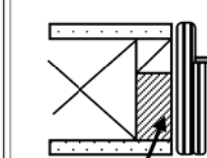
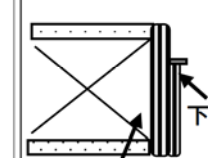
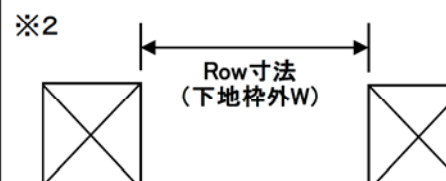
□ 3枚引違い戸(上吊+床付レール・非連動タイプ)

forステルス枠

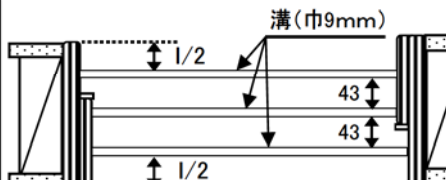
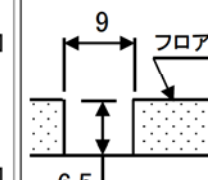
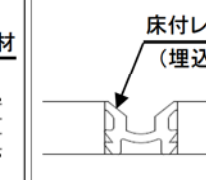
施工手順書2013/6作成

改訂2021/1

1-1 施工前の確認事項

① 下地枠を取り付ける前に、開口部の巾（図面：ROW寸法）と、高さ（図面：床仕上～開口高さ）の確認をしてください。 （縦枠下地は床仕上げ面からの立ち上がりとなっているので注意してください）	※1  隙間がある	 隙間がある	 隙間なく固定	
	×	×	○	
	※2  Row寸法 (下地枠外W)			
	開口の確認			
注意	※1: 下地枠は躯体（構造材）に取り付けますので、下地枠の裏側部分には必ず木材を全面に入れておいてください。			
	※2: 開口部（柱・まぐさ等）の水平・垂直・前後の倒れ・ねじれ等がないか、水準器等で精度を十分に確認してください。			

1-2 施工前の確認事項（床付レール（埋込V）取付の場合）

① 床付レール（埋込V）を床に取り付ける場合、右図の所定位置に、床付レール（埋込V）を埋め込む溝を確保してください。 縦枠面から縦枠面まで、巾9mm 深さ6.5mmの溝を3本確保してください。	 溝(巾9mm)	 フロア材	 床付レール (埋込V)	
	床付レール（埋込V）の取り付け溝位置	床付レール（埋込V）の取り付け溝断面	床付レール（埋込V）納まり図	
注意	※床付レール（埋込V）がきつくり入らなかったり、緩くて外れてしまわないように、床付レール（埋込V）を埋め込む溝の巾は指定の寸法9mmを守ってください。			
	また、段差が出来ないように、溝の深さも指定の寸法6.5mmにしてください。 ※床付レール（埋込V）を埋め込む溝は、縦枠面から縦枠面までとなります。縦枠面に段差があるため、3本の溝の初めと終わりの位置が異なりますので、縦枠を仮合わせてご確認ください。			

□ 3枚引違い戸(上吊+床付レール・非連動タイプ)

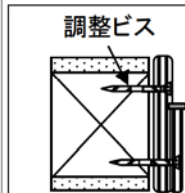
forステルス枠

施工手順書2013/6作成

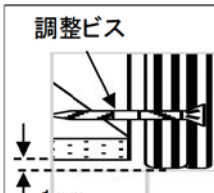
改訂2021/1

2 縦枠下地の取り付け

- ① 縦枠下地を柱に固定します。
(向って左側は下地断面が厚い方、右側は薄い方)
枠を壁厚の真ん中に置き、柱にあててレーザー等で立ちを見ながら、同梱されている調整ビスにて枠の固定を行ってください。(縦枠下地は壁厚より1mmずつチリが出ます)



調整ビスにより枠を固定



壁厚より1mmずつチリが出る



ビスの止め方

頭が飛出している

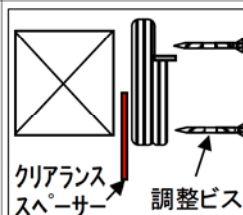


ビスの止め方

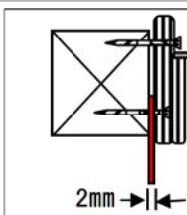
頭が飛出していない

ビスは枠より飛び出さないように固定、及び調整を行ってください。

- ② 取り付けの際に、調整ビスの中に同梱されているクリアランススペーサー(2mm)を躯体と枠の間に入れ、クリアランスを保ち、ビス固定を行ってください。(図面寸法：躯体と縦枠下地のクリアランスは2mm)
また、縦枠下地の裏側下部にあらかじめ2mmのパッキン材がついています。



クリアランススペーサーを挟む



2mmのクリアランスを保ち調整、ビスにより枠固定



パッキン材

あらかじめ縦枠下地の裏側下部に2mmのパッキン材がついている

注意

- ※1: 縦枠下地の下部裏側にあらかじめ2mmのパッキン材が取付けてありますので、枠内寸法が確保出来ない場合以外は外さないでください。
※2: クリアランススペーサーが抜けない場合は、手動ドライバーにて少しゆるめてから外してください。
※3: 躯体がスタッドの場合は、石膏ボードに直接、縦枠下地を取付けると調整ビスが利かないので、必ず間に木材(15mm以上)を入れてください。
※4: 調整ビスを何度も出し入れすると、ビス穴が広がり調整が利かなくなる可能性があるため、その際は別の所で再度、取り付けを行ってください。

3-1 上枠下地の取り付け(上枠勝ち納まりの場合)

- ① 上枠下地を接着剤・取り付けビス(現場手配品)併用にてまぐさに固定します。上枠下地の取り付け位置は、縦枠下地と同様に壁厚の真ん中に取り付けてください。(縦勝ちに納まります)
上枠下地の裏側には20mm以上の木材を入れてください。



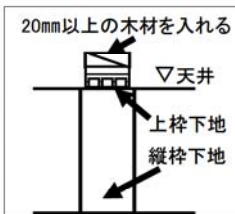
下地裏面に接着剤全面塗布



縦枠勝ちに納める

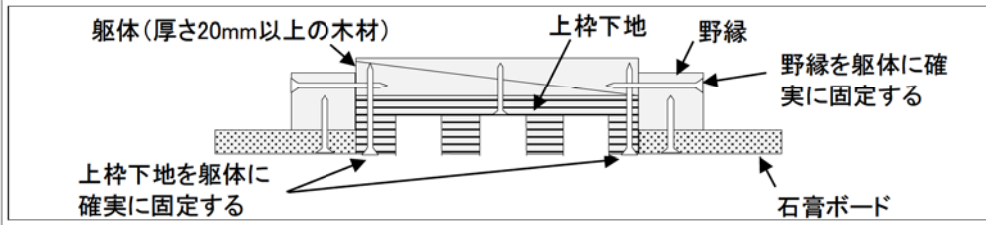


下地表よりビス固定



上枠下地の裏には20mm以上の木材を入れる

- ② 上枠下地と石膏ボードを連続して納める場合、野縁を躯体にしっかりと固定します。その際、石膏ボードの厚さを確保してください。その後、石膏ボードを上枠下地に合わせて野縁に固定してください。



石膏ボードの厚さを確保して、野縁を躯体に固定
その後、野縁に石膏ボードを取付ける

注意

- ※下地枠裏面には、必ず接着剤(現場手配品)を全面に塗布してください。(許ビス系をお奨めします)
※下地枠の取り付けにはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、必ず下穴の開いている位置でビス止めしてください。
※下地枠取り付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。またその際、レールビスと干渉しない位置にビス止めを行ってください。
※上枠下地の裏側には、必ず20mm以上の木材を入れてください。
※野縁は躯体にしっかりと固定してください。上枠下地が固定されている躯体に野縁が固定されていないと、クロスの割れ、よれ、塗り壁の割れの原因となります。
※縦枠下地の天井のみ込み部分は、ボードの厚み部分の欠き込みを行ってください。

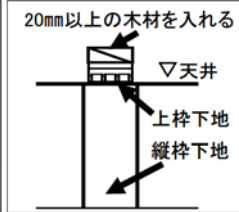
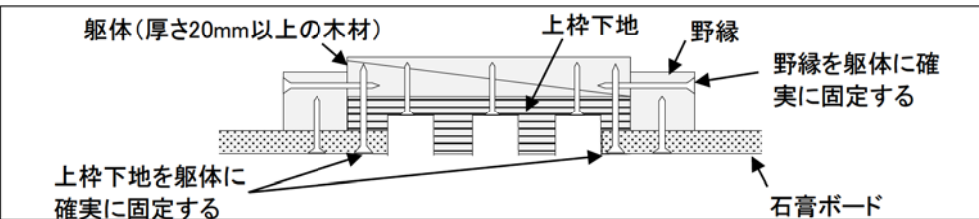
□ 3枚引違い戸(上吊+床付レール・非連動タイプ)

forステルス枠

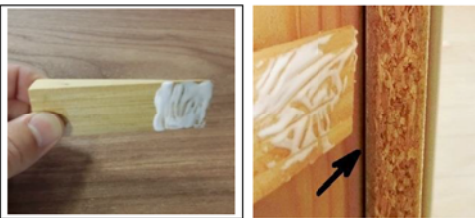
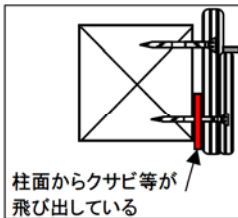
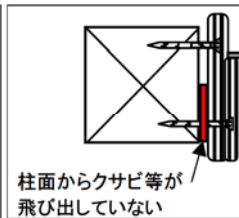
施工手順書2013/6作成

改訂2021/1

3-2 上枠下地の取り付け (天井ボード勝ち納まりの場合)

① 上枠下地を接着剤・取り付けビス(現場手配品)併用にてまぐさに固定します。上枠下地の取り付け位置は、縦枠下地と同様に壁厚の真ん中に取り付けてください。(縦勝ちに納まります) 上枠下地の裏側には20mm以上の木材を入れてください。				
② 野縁を躯体にしっかりと固定します。その際、石膏ボードの厚さ分を確保してください。その後、石膏ボードをレール溝に合わせて野縁と上枠下地に固定してください。	 石膏ボードの厚さ分を確保して、野縁を躯体に固定 その後、野縁と上枠下地に石膏ボードを取付ける			
注意	※下地枠裏面には、必ず接着剤(現場手配品)を全面に塗布してください。(許ビスをお奨めします) ※下地枠の取り付けにはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、必ず下穴の開いている位置でビス止めしてください。 ※下地枠取り付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。またその際、レールビスと干渉しない位置にビス止めを行ってください。 ※上枠下地の裏側には、必ず20mm以上の木材を入れてください。 ※野縁は躯体にしっかりと固定してください。上枠下地が固定されている躯体に野縁が固定されていないと、クロスの割れ、よれ、塗り壁の割れの原因となります。 ※縦枠下地の天井のみ込み部分は、ボードの厚み部分の欠き込みを行ってください。			

4 縦枠下地の調整・クサビまたはパッキン材固定

① 下地の取り付けが終わったら、同梱品の開口定規にて下地枠内W寸法の確認をしてください。調整が必要な時は、手動ドライバーで縦枠下地の出し入れを行ってください。			
② ビスでの取り付け・調整が終わったら、縦枠下地と躯体の間にクサビ、またはパッキン(現場手配品)を接着剤併用にて入れて固定してください。			
注意	クサビまたはパッキンの表裏に接着剤を塗布し、縦枠下地と躯体の間に差込む	クサビまたはパッキンの入れ方 ×	クサビまたはパッキンの入れ方 ○
※ウォールスルーが並列する場合や、その他納まりでビスがはみ出してしまう恐れがある場合については、別のビス(現場手配品)にて取り付けを行ってください。 ※クサビ、またはパッキンはビスとビスの間に、レーザー等で立ちを見ながら行ってください。 ※クサビ、またはパッキンが柱面から飛び出していると石膏ボードの取り付けができないので、柱面から飛び出さないようにしてください。			

□ 3枚引違い戸(上吊+床付レール・非連動タイプ)

forステルス枠

施工手順書2013/6作成

改訂2021/1

5 巾木施工

- ① 巾木を接着剤にて、縦枠下地の欠き込み部分にはめ込むように取り付けてください。(接着剤は酢ビ系をお奨めします)



接着剤全面塗布

下地の巾木欠き込み部分
(7×30)

下地の欠き込み部分に
はめ込むように取り付け

注意

※出荷時にはシンプル巾木の欠き込み(7×30)がされています。30mm以上の巾木をご使用の場合は、現場にて高さ方向の切り欠きを行ってください。
(巾木厚さ7mm以上の対応は行っておりません)

6 巾木・クロス施工(塗り壁の場合 別紙塗り壁仕様参照)

- ① パテ等の下地処理をした後でクロスを貼ってください。
(メッシュ→下塗り→上塗りをお奨めします)
その際に、金物加工部分もクロス巻き込んでください。

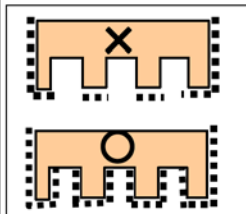


メッシュテープ貼り

パテ処理

金物加工部分

金物加工部分も
クロスを巻き込む



クロスの貼り方

注意

※上枠下地の上レール溝部分は、クロス貼り伸ばして上レール溝に巻き込んでください。

□ 3枚引違い戸(上吊+床付レール・非連動タイプ)

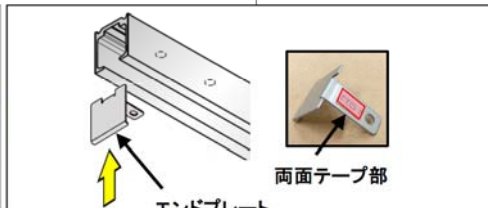
forステルス枠

施工手順書2013/6作成

改訂2021/1

7 上レール・上部ストッパーの取り付け(金物は別途梱包にあります)

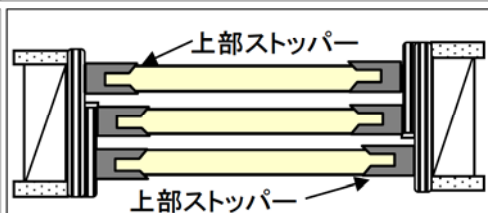
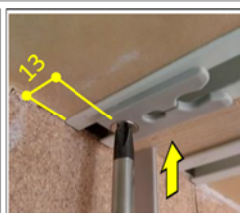
- ① 上レールを取り付ける前に、あらかじめ上ローラーと上部ストッパーを上レール内部に入れてください。
上レール端部にエンドプレート
を両面テープで仮止めしてください。付属の取り付けビスで、
上レールとエンドプレートを固
定してください。



上ローラーを上レールに入れる

エンドプレートを両面テープで仮止めし、
上レールと一緒に固定する

- ② 上部ストッパーを3枚の建具すべ
ての上レール戸先側・戸尻側に
取り付けます。(上レール端部か
ら上部ストッパーのビスセン
ターまで、13mmの所に取り付
けてください)
金物は別途梱包にあります。



上部ストッパーの取り付け

最後の締め付けは
手動ドライバーで行う

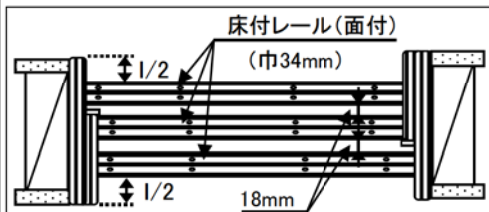
上部ストッパーの取り付け位置

注
意

- ※上ローラーの向きに注意してください。(突起がある方が内側)
- ※上部ストッパーは上レールにつめがかかるようにして締めつけてください。
- ※締め方が弱いと、建具の開閉時に上部ストッパーが動いてしまうことがありますので注意してください。
- ※ビスを締め付けすぎると上部ストッパーが破損しますので、最後の締め付けは必ず手動ドライバーで強く行ってください。

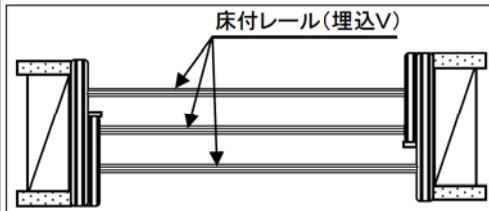
8 床付レールの取り付け(金物は別途金物箱にあります)

- ① 床付レール(面付)の場合
床付レール(面付)を床に取り
付けます。右図の所定位置に、
付属のビスで取り付けてくだ
さい。
ビスの取付順は、中央から始め
両端側に止めて行ってくだ
さい。



床付レール(面付)の取り付け位置

- ② 床付レール(埋込V)の場合
床付レール(埋込V)に当て木
をして、溝に埋め込んでくだ
さい。
レールの長さが短いものが中
央、長いものが内外側になり
ます。



床付レール(埋込V)の取り付け位置

注
意

- ※床付レール(面付)の取り付けの際、ビスを締め付けすぎるとレールが変形する恐れがありますので、最後の締め付けは必ず手動ドライバーで行ってください。
- ※床付レール(面付)の場合、床材の伸縮によりレールが浮いた時は、一度取外して再取付してください。その際、必要に応じレール裏面に両面テープを付けてください。
- ※床付レール(埋込V)の溝巾が広がってしまい、レールが外れてしまう場合には、両面テープ(現場手配品)をレールの底面に貼り付けて対応してください。

□ 3枚引違い戸(上吊+床付レール・非連動タイプ)

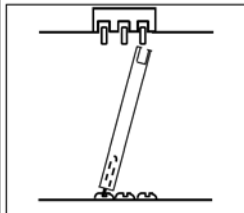
forステルス枠

施工手順書2013/6作成

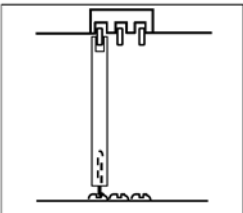
改訂2021/1

9 建具の吊り込み

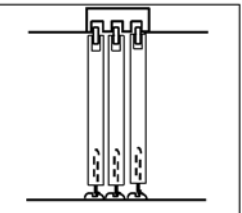
- ① 奥の建具から下部床付レールの溝に戸車をはめ込み、建具を起こしていきながら上レールの上ローラーと、建具のケーシングを連結させます。(右手前になるように吊り込んでください)



真ん中の建具を下部床付レールの溝にはめ込む



上ローラーと建具のケーシングを連結させる



3枚共建具を吊り込む

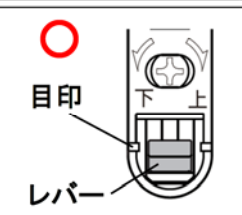
- ② 上ローラーとケーシングを連結する際には、必ず最後まではめ込み、パチンという音を確認してください。



ケーシングと上ローラーを連結する



パチンの音を確認



上ローラーのレバーの位置を確認する

注意

- ※建具を持ち上げる際は天井に建具がぶつからない様に気を付けてください。
- ※上ローラーとケーシングは、パチンと音が鳴るまで連結させてください。最後まで入っていないと、使用中、外れる恐れがあります。
- ※上ローラーを取り外す際、素手で外れない場合は、グライヤー等工具を使用し取り外してください。
- ※ソフトクローズ機能は付いておりません。
- ※建具の開閉は、勢いよくやりすぎると金物が破損する可能性があるので注意してください。

10 上ローラーの調整

- ① 吊り込み後に上ローラーにて調整をする際は、上下調整は下側のネジ、左右調整は上側のネジにて、手動ドライバーで行ってください。



上ローラー
上下の調整



上ローラー
左右の調整

【調整範囲】
上方向3.0mm
下方向4.0mm
左右方向±2.0mm

注意

- ※調整の際に電動ドライバーは使用しないでください。
- ※戸先側と戸尻側の木口で調整方法が反転しますので、ご注意ください。

☐ 3枚引違い戸(上吊+床付レール・非連動タイプ)

forステルス枠

施工手順書2013/6作成

改訂2021/1

11 下部戸車（面付レールの時）の調整

① 戸車にて調整する際は、上下調整は真ん中のネジ、左右調整は下側のネジにて、手動ドライバーで行ってください。	 上下調整	 左右調整	【調整範囲】 上下方向+6mm、-0mm 左右方向±2mm	
	戸車の調整			
注意	※調整の際に電動ドライバーは使用しないでください。 ※戸先側と戸尻側の木口で調整方法が反転しますので、ご注意ください。 ※戸車の調整は全ての建具で行えます。			

12 化粧キャップの取付け

① 全ての調整を終えたら、化粧キャップを取付けてください。外す場合は、化粧カバーの溝にマイナスドライバー等を差し込み外してください。				
	化粧キャップを取付ける	※化粧キャップを外す場合 化粧キャップの溝に マイナスドライバー等を 差し込み外す		
注意				

塗り壁仕様施工方法

forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2019/8

1-1 共通事項

① 枠の取付け・調整、及びクサビ、またはパッキンの固定が終ったら、巾木を接着剤にて縦枠下地の欠き込み部分にはめ込むように取り付けてください。(接着剤は酢ヒ系をおすすめします)				
	接着剤全面塗布	下地の巾木欠き込み部分 (4×30)	下地の欠き込み部分にはめ込む様に取り付け	
② 金物箱に同梱されている受金物（ヒンジ・ラッチ受・鎌錠受・レール・ガイドピース等）を加工部、または下穴があいている所に取り付けてください。				
	ヒンジ取付け (下穴加工部分)	ヒンジ取付け (ビス止め)	ラッチ受取付け	塗り代2～3mm
注意	※出荷時には、巾木の欠き込みはクロス仕様よりも3mm浅く（4mm）欠き込んであります。（巾木の厚み7mm以上の対応は行っておりません） ※塗りの厚みは2～3mmの設定になっているため、受金物もクロス仕様より2～3mm出っ張るよう加工されています。 ※天井はクロス貼り、下り壁は塗り仕上げの仕様となります。（下り壁仕上げ面の塗りの厚みは1.5mm以内となります）			

1-2 共通事項

③ 受金物の取り付けが終ったら、受金物・樹脂見切り・金物台座・巾木・見切り縁等に隙間がないように養生を確実にし、石膏ボードと枠をまたぐようにメッシュテープを貼ってください。				
	受金物等に養生	メッシュテープ貼り (石膏ボードと枠をまたぐように貼る)		
④ メッシュテープを貼った後、パテ処理（2度塗りを推奨）をしてください。パテが乾燥後、下塗り材（アク止め入り）をムラなく塗り、1～2日乾燥させてください（漆喰の場合は2度塗り）。その後、仕上げ材をムラなく塗り、3～4日乾燥させてください。この時、ビス部分にもパテ処理を行ってください。				
	パテ処理（下地処理） (2度塗りを推奨)		下塗り及び 仕上げ塗り	
注意	※ウォールスルーはガラスの押え線を見切りに塗ってください。 ※受金物・樹脂見切り・金物台座・巾木・見切り縁等は出の寸法が異なりますので、はみ出さないよう注意して塗ってください。 ※片開き戸、親子戸はヒンジ側の納まりが平部の場合、巾木は縦枠下地の面で止める仕様になります。 (ヒンジから巾木までの欠き込みは、塗りにて処理してください) ※漆喰の場合、アク止めは1回塗った後に十分乾燥させ、さらにもう1回塗って、1～2日乾燥させた後に上塗りを行ってください。			

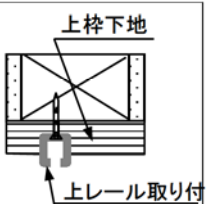
□ 塗り壁仕様施工方法

forステルス枠

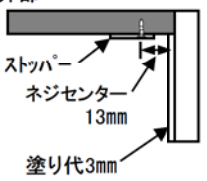
施工手順書2013/6更新

改訂2019/8

2-1 塗り壁施工前手順

①	上レールの取り付け 下り壁仕様の場合、上レール・折戸レールは塗り壁施工前に取り付けてください。				
		塗り壁施工前に上レール取り付け			
注意	※フリー折戸の下レール、及び床付レールの取り付け位置は、クロス仕様と同じ位置になります。 ※塗りは下り壁の場合のみの設定です。天井納まりの場合はクロス貼仕様のため、クロス貼後に上レールを取り付けてください。 ※見切縁はボードより2.5mmチリが出ますので、見切縁よりもはみ出さないように塗り壁施工を行ってください。				

2-2 塗り壁施工前手順

③	上部ストッパーの取り付け 3枚引違い戸（非連動タイプ）の場合は塗り厚が3mmの場合、塗り仕上げ面から上部ストッパーのネジセンターは13mmとなります。				
		3枚引違い戸（非連動タイプ）の場合の 上部ストッパー位置			
注意	※塗りの厚みが3mmの場合の塗り仕上げ面からの位置になります。				